

## ・海外感染症流行情報(2012年7月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・カンボジアの原因不明の感染症は手足口病と判明

本年4月よりカンボジア南部で重症の熱性疾患が小児の間に流行し、7月上旬までに患者数が70人以上に達しました。WHOはこのうち61人の患者(54人死亡)の調査を行い、この感染症が手足口病で、病原体はエンテロウイルス71であることが明らかになりました(WHO Global Alert and Response 2012-7-4, 9,13)。

手足口病は口腔粘膜や手足に発疹をおこすウイルス感染症で、日本でも夏季に乳幼児を中心に流行がみられます。病原体はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスなどで、一般には予後良好な疾患です。しかし、稀に脳炎や心筋炎などの合併症をおこすことがありま、とくにエンテロウイルス71型による場合は重症化することが多いようです。今回のカンボジアでの事例はエンテロウイルス71型が原因であったことに加えて、多くの患者の治療にステロイドが使われていたことが重症化の原因になったと考えられています。

なおWHO 西太平洋事務局の発表によれば、今年はアジア各地で手足口病の流行がみられており、7月中旬までに中国で127万人(昨年の約2倍)、シンガポールで2万6000人(昨年の約3倍)の患者が報告されています(WHO Western Pacific Region HP 2012-7-13)。またベトナムでも今年は5万7000人の患者が発生しており、29人が死亡しています(米国CDC Traveler's Health 2012-7-23)。

手足口病は飛沫感染や接触感染をおこすため、流行地域では「手洗い」や「うがい」を励行することが大切です。

### ・香港、台湾での日本脳炎患者の発生

香港の九龍半島にある天水圍で、本年6月に20歳女性が日本脳炎を発症しました(Pro MED 2012-7-6)。患者は重篤な状態にある模様です。香港では日本脳炎の患者が散発しており2011年も1例が報告されています。

台湾では今年の日本脳炎患者数が7月中旬までに25人を超えました(台湾CDC 2012-7-19)。昨年の年間患者数が22人であり、今年は増加傾向にあることがうかがえます。患者が多いのは台南市や高尾市など南部地域となっています。台湾ではこれから蚊の増える季節を迎えますが、現地に長期滞在する際には日本脳炎ワクチンの接種を受けておくことをお奨めします。

### ・東南アジアでのデング熱流行状況

7月になり東南アジア各地でデング熱患者の増加がみられています。

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、7月中旬までにフィリピンで約3万4000人、カンボジアで約1万1000人、ベトナムで約1万6000人、マレーシアで約1万1000人の患者が報告されています(WHO Western Pacific Region HP 2012-7-13)。ほとんどの国では患者数が例年並みですが、カンボジアでは

昨年よりもかなり増えています。同国衛生当局の最近の報告では6月下旬までの患者数が1万5000人に更新されており、昨年同期の4倍の数になっています(Pro MED 2012-7-23)。

タイでも保健省の発表によれば1万8000人の患者が発生しており、今年は大人の患者が多くなっている模様です(Pro MED 2012-7-8)。

#### ・カリブ諸国でコレラが流行

カリブ海のハイチでは2010年の大地震以降、コレラの流行が発生しています。現在までに患者数は57万人に達し、うち7000人以上が死亡しました(厚生労働省検疫所 HP 2012-7-17)。同国では8月～10月が雨季になるため、これから患者数が増加することが予想されます。なお、国境を接するドミニカにもコレラの流行が波及しており、2010年以来の患者数は2万5000人になっています。

キューバでも東部の Manzanillo でコレラの流行が発生しており、7月中旬までに85人の患者が報告されました(EuropeCDC 2012-7-13)。同国では150年ぶりのコレラの流行になります。